

2020年

# 本屋大賞 受賞



## 流浪の月 風良ゆう

四六判仮フランス装 320ページ 定価 (本体1500円+税)  
ISBN978-4-488-02802-2



東京創元社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町1-5  
http://www.tsogen.co.jp/ TEL03-3268-8231 FAX03-3268-8230

あなたと共にいることを、  
世界中の誰もが反対し、批判するはずだ。  
わたしを心配するからこそ、  
誰もがわたしの話に耳を傾けないだろう。  
それでも文、  
わたしはあなたのそばにいたい——。  
再会すべきではなかった男女が出会ったとき、  
運命は周囲の人々を巻き込みながら疾走を始める。

更紗と文、  
ふたりと一緒に長い旅をしように  
読んでいただけると嬉しいです。

### 【著者紹介】

風良ゆう

2007年、長編『花嫁はマリッジブルー』で本格的デビュー。以降、各社でBL作品を精力的に刊行し、デビュー10周年を迎えた17年には初の非BL作品『神さまのピオトープ』を発表、作風を広げた。巧みな人物造形や展開の妙、そして心の動きを描く丁寧な筆致が印象的な実力派である。おもな著作に『未完成』『真夜中クロニクル』『365+1』『美しい彼』『わたしの美しい庭』などがある。

風良ゆう

# 全国の書店員さん 大絶賛の嵐!! 胸を打つ傑作小説

(五十音順)

心のざわつきが止まらない。読んでいて溺れそうになる。こんな小説は初めてだ。不穏で、もどかしくて、苦しくて、どうしようもなく美しい。

東京旭屋書店新越谷店 猪股宏美さん

ここに書かれていることがすごくよく判る。普通に生きているだけなのに、他人から言外に、あるいは声高に、多くのことを強要される人の、静かな絶望を思う。幾百幾千幾万の文と更紗と同じ魂に幸あれ。

精文館書店佐鳴台店 貝塚知香さん

誰かを好きになるってどういうことなのか？ 他人からみたら異常な愛かもしれない。それでも好きな人のそばにいて、好きな人を独りにしない。架空の話だけど、そんな風に生きている彼女と彼を僕はずっと見守っていたい。

MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店 勝間 準さん

読み終わって、少し泣いて、放心した。悲しいのとも違うこの感情をなんと呼べばいいのかわからないけれど、いま、主人公の二人に祝福を、と祈らずにはいられないのだ。

丸善名古屋本店 熊谷由佳さん

「どんでん返し」や「異常なほどの衝撃的な展開」は無い。なのにもかかわらずこの作品は僕の心に大きな感動を与えてくれた。きっとこの作品は僕にとって大切な1冊になると思う。

TSUTAYA BOOKSTORE五反田店 栗俣力也さん

一見穏やかな物語かと美味しく堪能していたらいつの間にか柔らかい毒がゆっくりとまわっていて体中を巡って最後に静かにとどめを刺されたような。もうすっかり風良ゆう中毒にされてしまいました。

紀伊國屋書店梅田本店 小泉真規子さん

読んでいる間、何回ため息をついただろう。初読み作家さんの作品で、こんなにスルスルと染みこんでくる作品にはそうそう出会えないので、感謝のため息もつきました。

丸善広島店 小林裕子さん

裏面にも  
書店員さんからの  
コメント続々